

給食食材の放射線測定など
食品の安全確保の取り組みは

高野 昇

問 昨年12月市議会では給食食材の検査実施を求め、市長と教育長から答弁を頂き、検査が実施されることとなり、皆さんから喜ばれている。

追加被曝量は、外部被曝と内部被曝の総量で考慮すべきではないか。

答 政策室長 私どもは被曝に関する知見を充分持つておらず、国が示した基準に基づいて対応している。

問 食品安全委員会が「あたかも外部被曝を含めた放射線全体の健康評価をしたような誤解が生じた。」とお詫びの会見をしている。市としての知見も持つて、市民が安心できる対策が必要ではないか。

答 政策室長 国の中で起きた矛盾なので、国の方でしっかり対応していただきたい。

◆ TPP参加は、食の安全基準に大きな影響があるが

問 食品添加物や残留農薬基準など、非関税障壁の撤廃

が原則となっているが。
答 市長 交渉のテーブルに付いていない現時点での影響を判断することは難しい。

◆ 市の公共工事や業務委託の現場労働者の賃金実態は

問 公共工事や業務委託の現場労働者や業者の、賃金・労働条件の劣悪化が問題となっている。吉川市の実態は。

答 総務部長 市発注の工事等に係る労働者の賃金・労働条件の実態は把握していない。請負者が法令を遵守し適切に対応していると考えている。

三輪野江地区の地域環境整備への取り組みを

中村 喜一

問 生活道路の安全確保を。

答 都市建設部長 舗装の劣化がみられるところもあり、平成24年度において、舗装を行う予定である。

問 歩行用道路の整備を。

答 都市建設部長 水と緑が親しめる快適な歩行空間について、空地や安全性、利便性などをふまえ研究する。

問 農業用排水路の維持管理について。

答 市民生活部長 土水路部分の崩れた箇所は、堀削による成型や、危険箇所の補修などをすすめていく。

◆ これからの農業政策のすめかたについて

問 次代の農業の担い手の育成について市長の見解は。

答 市長 農業従事者の高齢化を考えると今後重要な課題である。地域農業の担い手となる認定農業者の確保をはかるとともに若手の農業者、青年会議所など団体への支援を行っていく。

問 新規農業者の育成について方策は。

答 市長 市内の農業法人への高校生などの研修の受け入れは新規就農につながっている。今後、国の新規就農者確保事業の活用などを検討していく。

問 将来を見据えた農業の抜本的対策について。

答 市長 農業の重要性の理解と、農業者の経営力の向上に努める必要がある。また、担い手農業者の確保や、農地

の集積化、農業者の経営力の向上などに取り組んでいく。



吉川市の農業の将来は...

歩行者の分離について。また、自転車の一方通行化について。

②グリーンベルト、横断歩道の設置基準について。

③ブロック塀などの耐震診断や改修に要する費用支援について。

答 市民生活部長 ①警察署と協議していきたい。②グリーンベルトはドライバーの視覚の面で交通事故が少なくないという感覚もある。横断歩道に合わせて交差点の強調表示についても検討していく。

答 都市建設部長 ③補強の啓発に努めているが補助金については、現在、考えていない。

生活道路の改善と自転車・歩行者の分離を

降旗 聡

問 子どもたちの登下校時や放課後の安全確保、さらに大規模災害時には避難経路ともなる生活道路の整備が必要であると考えます。市の見解を以下3点について伺います。

① いちよう通りの自転車と

問 PTAで行っている通学路安全点検の活用を。

答 教育部長 県では平成23年7、8月にPTAの協力を得ながら通学路総安全点検に取り組んだ。教育委員会では、学校・PTA・自治会と連携し定期的に安全点検を行い危険箇所の解消を図ってきた。今後とも点検ポイントなどを活用し、児童・生徒の安全を確保していきたい。